

予測がますます難しい社会 **グローバルな視野で考え、生き抜く力をつける実践的教育** 人工知能の飛躍的な進歩

新時代に突入した教育現場

不登校・いじめ・暴力・虐待・貧困等、子どもたちを取りまく課題は山積である今日の学校教育。子どもたち一人ひとりを総合的に把握しながら、身につけるべき資質や人格、能力を育む学校教育は、ますます多様化し変化する社会に応じた教育が要求される。次世代の学校においても、今まで以上に広い視野を持って子どもたちに向き合い、個に応じた指導や特別な配慮が求められている。コロナ禍で世の中は大きく価値観も変わってきた。新しい時代に対応した教育現場となり、本校も最新のネットワークなどを導入し、この難局をしなやかに生き抜こうとしている。



1 教職員 生徒全員 **タブレット**



2 授業は全教室で **ICT**



3 トイレはすべて **ウォシュレット**



4 玄関は **サイネージ**

1台は 高橋建設(株)より寄贈、もう1台は卒業記念品。



5 検温は **サーマルカメラ**



6 連絡は **ブレンド**

1 タブレット

軽くて持ち運びやすいサイズの PC。タッチパネル式で電子書籍や資料を活用するなど、授業時に利用する。

2 ICT

「教科書・資料の電子化」「オンライン授業」「動画での授業」「資料作成をタブレットで」などが可能な情報通信技術を使用して授業を進める。

3 ウォシュレット

校舎内外すべてのトイレに設置しており、温水洗浄機能付で手をかざすだけで水が流れて手が洗える。

4 サイネージ

表示と通信にデジタル技術を活用した情報配信の電子看板で、本校の紹介をしたり注意喚起をする。

5 サーマルカメラ

顔をかざして0.3秒で検温完了。人体に触れることなく暗闇でも感知でき、体温を即座に表示する。

6 ブレンド

学校からの連絡、欠席連絡の送信、成績の確認、校務に必要な業務機能を備えた校務支援システム。生徒・保護者・教職員すべてが、各人のスマホやPCで検温登録などができ、保健管理もできる。



3年 石田 紗愛 (益田東) 2年 作間 華絵 (横田) 2年 浅原 琉那 (青陵) 1年 石田 萌笑 (益田東) 1年 広山 舞 (松江一) 1年 中田 希実 (浜田三) 1年 村上 倫 (仁多) 1年 伏谷 久慧 (青陵)

第74回中国高等学校陸上競技選手権大会出場

クロスカントリー日本選手権2021

2.27(土) 於：海の中道海浜公園(福岡)

女子U20 6km

オープン参加

ジュディ

19分48秒

優勝

「強く速く美しく」をモットーに、世界での活躍を目指す実業団女子駅伝の名門、資生堂に入社。早速、オープン参加したクロスカントリーで優勝。また、5.9(日)国立競技場で行われた、東京オリンピックプレ大会でも第2位でゴール。着実に力をつけている。

R3.6.18(金)~20(日)

於：維新記念公園陸上競技場(山口)



「走姿頭心」をモットーに
「より速く、より高く、より強く」

陸上部員は監督から指示されるでもなく、毎日早朝から走っている。早い者では4時半から。どんな日でも続けていくことで強靱な心身をつくり上げていく。人は、笑われて強くなる人もいれば、苦しみの中をくぐりぬけて勇気と忍耐を得る人もいる。無数に存在するその選択肢を、どう選ぼうか継続していかは、その人しだいでいく。日々の次のステップにいくために、今日も逆風の中を走り続けていく。

陸上競技・駅伝部



益田市陸上競技大会

R3.4.17(土) 益田市陸上競技場

1500m **1位** 石田 紗愛 **2位** 石田 萌笑 **3位** 作間 華絵

800m **1位** 作間 華絵 **2位** 石田 萌笑 **3位** 広山 舞 (松江一)

3000m **1位** 石田 紗愛 **2位** 浅原 琉那

島根県高等学校総合体育大会は、1年生の活躍も目立ち、部員の半分以上は自己ベストを更新している。「努力し成長して頑張る自分が好きで、大変だからおもしろい。」とある部員がさりと語った。人より速くゴールする、人より高く遠くへ飛ぶ、人より強く投げる。肉体としての限界がどこまでいくのか。そしてその勝敗の陰にある積み重ねてきた限界への挑戦が、一瞬で実に見られるところに、陸上競技の最大の魅力が詰まっている。

秋季体験入学会

10月2日(土)

授業体験があります。

個別相談会

6回全て土曜日です。

10/16・10/30

11/13・11/20

11/27・12/4

入学試験

★推薦入試

12月21日(火)

★一般入試

R4 2月4日(金)

170年の伝統と誇りを継ぐ

所属社中の

石見神楽

に魅せられ



「道返し」



「日本武尊」

Masuda 石見神楽 Week 創設記念

特別公演 5.16(日)~23(日)

演目「日本武尊」を神楽部がグラントワ中庭で披露予定がコロナ禍で中止。

災難を追い払うという神楽に感謝して、トントントントント... 石見神楽の太鼓のリズムを弁論の初めと終わりに、手で演台を叩きながら神楽の魅力と存続の願いをこめて、高野山で弁ずる。タイトルは「僕がそうであったように」。

第45回 全国高等学校総合文化祭弁論部門 第67回 文部科学大臣旗全国高等学校弁論大会

弁論

7.31(土) 8.1(日)
於：高野山大学 黎明館(和歌山県)

8年連続
15回目出場

島根県高等学校弁論大会

優秀賞

R2.12.21(月)
於：松江市



2年 榎並 愛斗 (高津)

神楽部

「大蛇」 緑の大蛇は榎並本人が演じている。